

達成目標の進捗状況

省力・低コスト技術の導入による 水稲栽培面積（北アルプス地域振興局調）	年度	基準値 (2017)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
	実績値	35ha	95ha	166ha
酒米（山恵錦）栽培面積 （北アルプス地域振興局調）	年度	基準値 (2017)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
	実績値	6ha	35ha	17ha
加工・業務用野菜栽培面積 （北アルプス地域振興局調）	年度	基準値 (2016)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
	実績値	12.2ha	20ha	12.6ha
民有林の広葉樹素材（木材）生産量 （北アルプス地域振興局調）	年	基準値 (2012~2016年の生産量から算出)	目標値 (2022)	最新値 (2018)
	実績値	1,600m ³	2,400m ³	556m ³
民有林のアカマツ素材（木材）生産量 （北アルプス地域振興局調）	年	基準値 (2012~2016年の生産量から算出)	目標値 (2022)	最新値 (2018)
	実績値	3,900m ³	8,900m ³	7,299m ³
製造業の従業者一人当たり付加価値額 工業統計調査（経済産業省）	年	基準値 (2015)	目標値 (2022)	最新値 (2018)
	実績値	9.3百万円	10.5百万円	16.4百万円（速報値）

- 省力・低コスト技術の導入による水稻栽培面積
高密度播種育苗(※)・精密田植えの増加に伴い、約4.7倍と大幅に増加
- 酒米(山恵錦)の栽培面積
生産農家から生産しやすい点が高く評価され約3倍に増加
- 加工・業務用野菜栽培面積
土壌病害(根こぶ病等)の発生に伴うキャベツの栽培面積の減少に伴い、前年比約24%減少
- 広葉樹素材(木材)生産量
合板工場向け針葉樹素材生産に対する補助制度の拡充等により、広葉樹の生産量は前年比約43%減少
- 民有林のアカマツ素材生産量
松くい虫被害の拡大防止のための積極的な更新伐や樹種転換により増加傾向が続く
- 製造業の従業者一人当たり付加価値額
2018年は管内大手企業の業績好調を反映し、約1.8倍に上昇

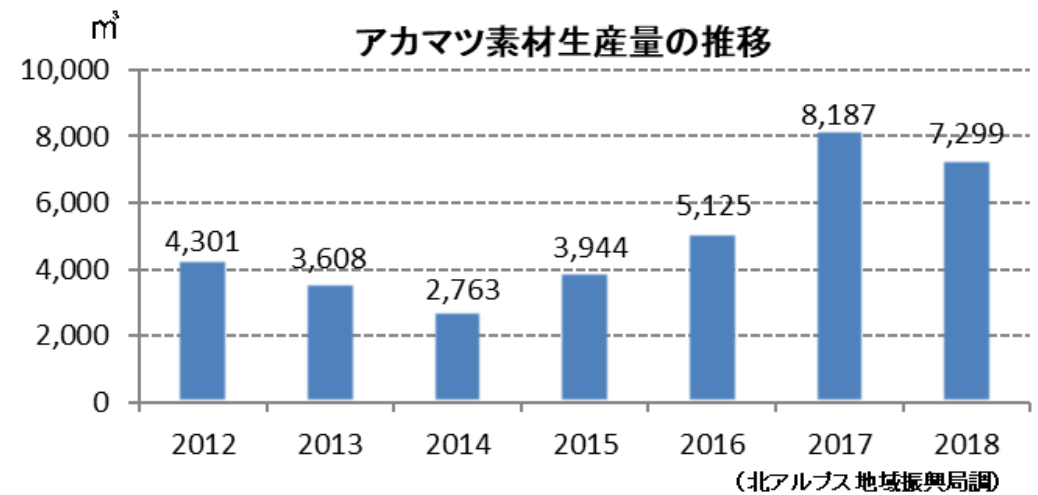
※種籾を通常の1.5倍の密度で播種し育苗する技術

省力・低コスト技術の導入による水稻栽培面積

(単位: ha)

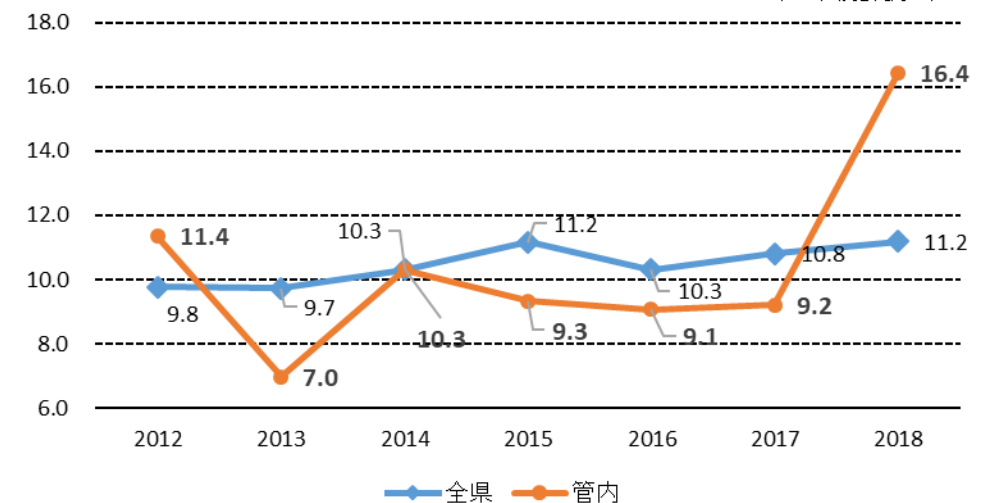
年 度	2017	2018	2019
水稻直播栽培	15	7	4.3
高密度播種育苗・精密田植え	20	121	162
計	35	128	166.3

(北アルプス地域振興局調べ)



一人当たり付加価値額の推移

(工業統計調査)



【重点政策の評価】

- 達成目標は概ね順調に推移し、米の効率的な生産の推進、特色ある米づくりの推進、アカマツ材の利用促進等の取組の成果が表れている。
- 園芸作物の戦略的導入に向けて、収益性の高いワイン用ぶどう栽培への支援の成果が表れている。
- 現在実施中の資源量調査や板材の乾燥試験等の結果を踏まえ、広葉樹活用ビジネスモデル構築に向けた製品開発や販売戦略等の検討が必要。



信州北アルプス日本酒まるわかり体験会
(酒米生産ほ場見学)

【今後の取組方針】

(農業)

- 高密度播種育苗・精密田植えは導入経営体の評価も高く地域に普及。引き続き、技術確立と専用機械の導入等を推進
- 「山恵錦」を使用した日本酒が管内の酒蔵(2社)で販売開始(H30年2月)。PRを推進
- 北アルプス山麓ブランドでは、認定品の拡大や市町村と連携したPRを引き続き推進(B級グルメの提供店舗募集、スタンプラリー)
- 加工・業務用野菜は栽培状況等を踏まえ作付面積の拡大を支援
- 管内で2つのワイナリーが新規オープン(大町市・池田町)。ワイン用ぶどう栽培を引き続き支援

(林業)

- 広葉樹の位置・量の未把握がビジネス化の課題。管内広葉樹の位置解析や生産モデル検証の取組を拡大
- 計画的な更新伐等により松くい虫被害の拡大を防止。「信州F・POWER プロジェクト」バイオマス発電施設の稼働など、再生可能エネルギーの普及・拡大に伴う木質バイオマス用材の需要増にアカマツ材を活用

(製造業)

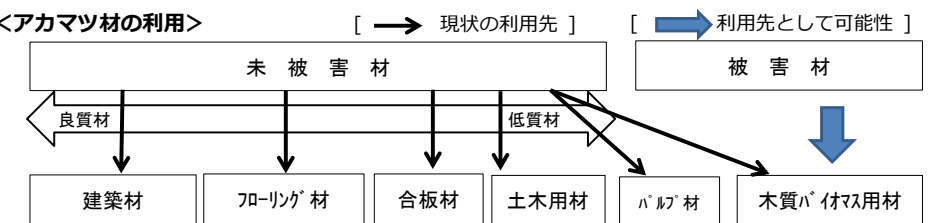
- 下請型で経営基盤の脆弱な企業が多く、研究開発型への転換を促進

主な園芸作物の栽培面積の推移(ha)

品目		2010	2017	2018	2019
加工・業務用野菜	タマネギ	0	3.5	4.7	4.5
	キャベツ	0	5.4	7.3	4.4
	ジュース用トマト	1.8	3.3	4.5	3.8
	計	1.8	12.2	16.5	12.6
ワイン用ぶどう		17.1	22.1	24.3	26.0

(北アルプス農業農村支援センター推計)

<アカマツ材の利用>



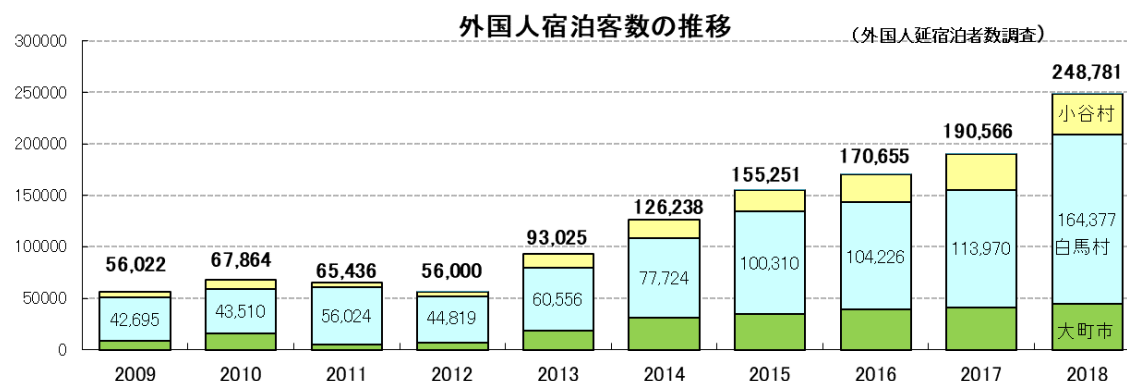
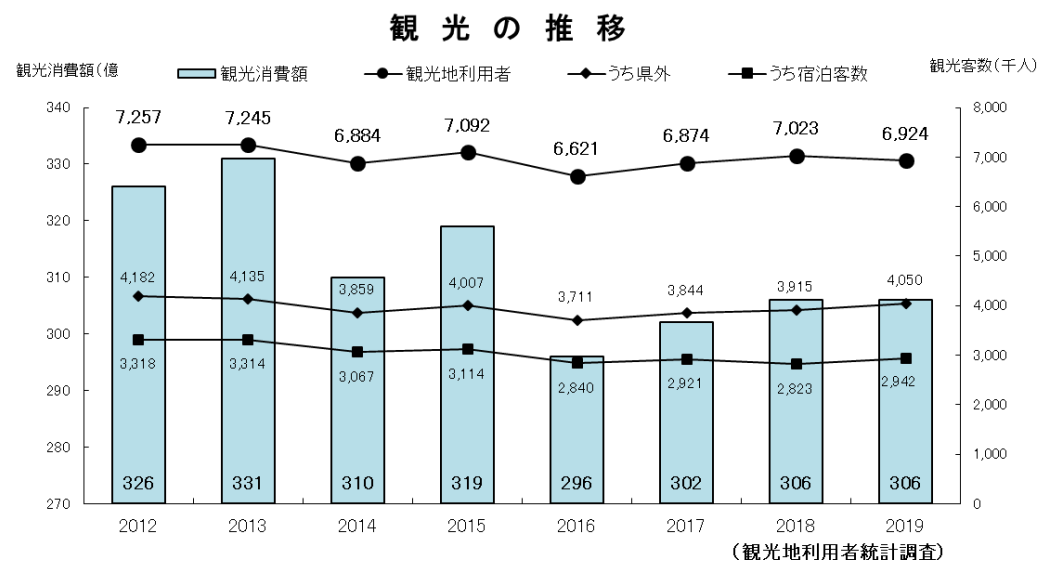
達成目標の進捗状況

観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	年	基準値 (2012～2016年の平均)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
	実績値	702万人	724万人	692万人
グリーンシーズン（4～11月） 観光地利用者数	実績値	446万人	468万人	430万人

- 観光地延利用者数は700万人前後で推移
 - 2019年は台風19号など夏以降の天候不順が影響し、前年比微減
- 外国人宿泊者数は2018年度には248,781人に増加
 - 冬季を中心に2012年度以降増加の一途をたどり、約4.4倍に増加

【重点政策の評価】

天候等による年度変動があるものの、グリーン期における集客施設のオープンやインバウンドの着実な増加等を要因に、観光地延利用者数は同程度の水準を維持しており、インバウンド対応の促進や地域の魅力発信等の取組の成果が表れている。



【今後の取組方針】

(観光振興)

- 新型コロナウイルスの影響を受けた観光事業者等への支援を早急を実施し、地域の観光の復興を図る。
- 地域の観光振興の旗振り役として2019年4月に設立された広域型DMO「HAKUBA VALLEY TOURISM」の取組を支援
- メディア招聘による地域全体の観光スポットPR・周遊コースの提案や各種ツーリズムを推進
- 外国人向け案内標識の整備、キャッシュレス決済の普及等により、インバウンドの流れを加速
- 「Japan Alps Cycling Road」に先駆けて、2018年度に北アルプス地域サイクリングモデルコースを設定。モデルコースのPR及び環境整備を実施
- 疎水や棚田等の農業資産を観光資源として活用(上原温水路(大町市)、木流川(白馬村)等)

(わっばら)

(きながしがわ)

(山岳環境保全・街並み整備)

- 登山道整備は関係者と連携し、着実な整備を推進
- 登山者に対し「登山マナーカード」を配布し、山岳環境保全に対する啓発を実施
- 北アルプス高山帯におけるニホンジカ・イノシシ等の野生鳥獣対策(高山植物の保護及び登山者の安全確保)を関係者間で連携して実施
- 多くの観光客が訪れるJR白馬駅前の街並み整備のため、電線地中化に着手
- 有力な観光資源としての可能性を有する「氷河」ブランド強化・発信のため、管内3例目となる新たな氷河の認定に向けた調査を支援



サイクルツーリズム PRブース出展
サイクルモードインターナショナル2019(幕張メッセ)



観光案内看板設置
上原温水路(大町市)



登山マナーカード



中部山岳国立公園 Chubusangaku National Park

達成目標の進捗状況

がん患者の大北医療圏からの流出状況 (健康福祉部調)	年度	基準値 (2015)	目標値 (2022)	最新値 (2016)
	実績値	入院 35% 外来 24%	入院 31% 外来 21%	入院 34% 外来 28%
災害時住民支え合いマップ策定地区数 (大町保健福祉事務所調)	年度	基準値 (2017)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
	実績値	159地区	230地区	174地区

● がん患者の大北医療圏からの流出状況 (最新値2016年度現在)

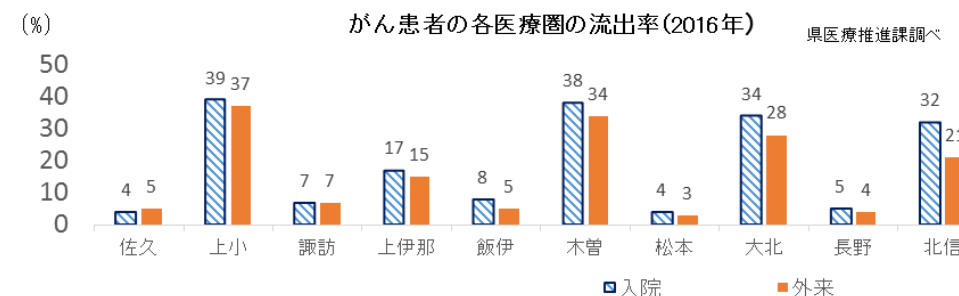
- 入院は微減、外来は増加
- がん専門病院の不足により松本医療圏への流出が続く

● 災害時住民支え合いマップ策定地区数は15地区増加 (2018年度6地区、2019年度9地区)

- マップの必要性に対する意識の違い等から取組に地域格差

【重点政策の評価】

- 管内のがんや心疾患等による死亡率は県平均に比べて高水準で推移し、医療・介護人材も依然として不足しており、生活習慣病予防や医療介護人材確保等の取組の成果が十分表れていない。
- 災害時住民支え合いマップ未策定地区が多い地域に対する、関係機関が連携した重点的な策定支援の取組の成果が徐々に表れている。



管内市町村別災害時住民支え合いマップ策定地区数の状況

地区数	計	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村
	計	230	97	33	17	30
マップ策定地区数	~2017年度	159	97	27	17	18
	2018年度	6		3		3
	2019年度	9				3
	計	174	97	30	17	24
策定率 (2019年度未現在)	75.7%	100.0%	90.9%	100.0%	80.0%	11.3%

(大町保健福祉事務所調)

【今後の取組方針】

(保健・医療・福祉)

- 地域住民の検診率向上に向けた啓発など、地域の医療機関等と連携したがん対策を一層推進
- あづみ病院が「地域がん診療病院」に指定(2019年4月)。今後、圏域内での受療(がん患者の圏域外への流出の抑制)が見込まれる。
- 医療・介護職場の魅力発信など、新たな人材確保に向けた取組を推進
- 市町村と連携し、健診時の尿中ナトリウム測定など減塩意識の向上を図るための取組を推進

(防災)

- 自助・共助・公助により地域防災力の向上に向けた取組を強化
- 市町村、社会福祉協議会及び県関係機関が連携して災害時住民支え合いマップ策定を支援
- 砂防施設は計画どおり31%の整備が完了。緊急輸送路の改良(2車線確保)はほぼ完了(98%)したことから、冬期の安定した交通確保を推進

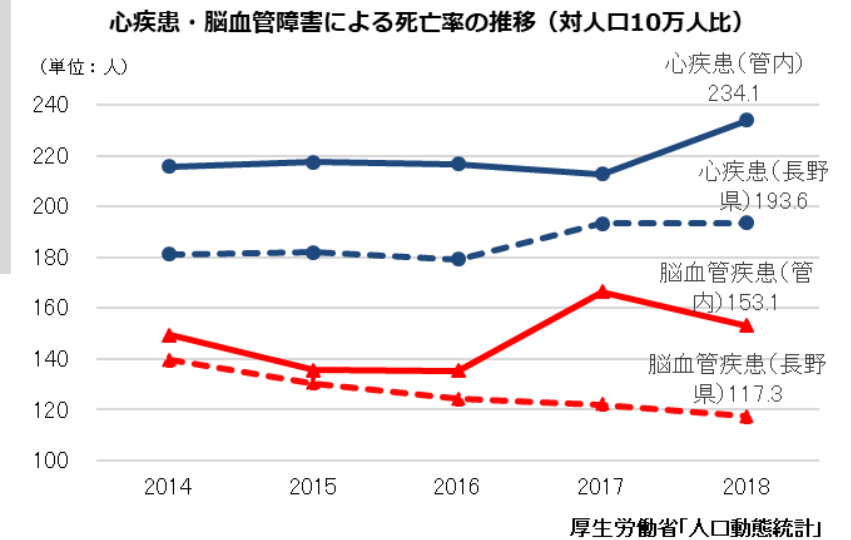
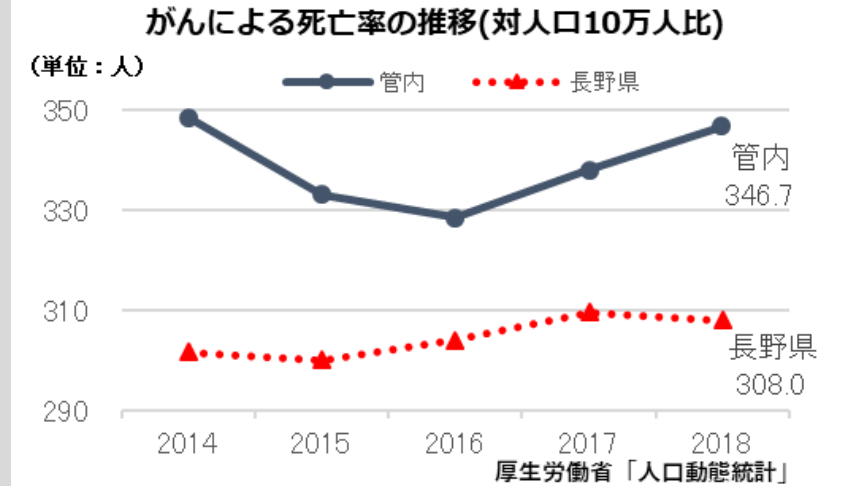
管内の緊急輸送路の状況

<一次緊急輸送路> ※広域的な輸送に必要な主要幹線道路

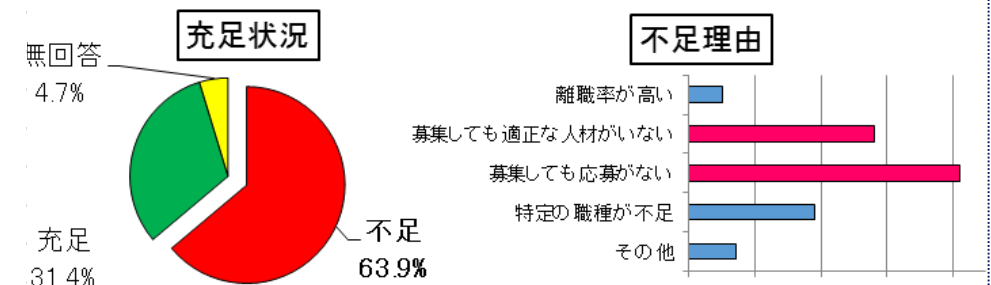
路線名	指定区間	管内延長	改良率
(国)147号	(国)19号交差点～大町市一中交差点	15.0km	100%
(国)148号	大町市一中交差点～新潟県境	46.0km	100%
(主)長野大町線	(国)19号交差点～(国)148号交差点	16.0km	100%
3路線		77.0km	100%

<二次緊急輸送路> ※役場等の主要な防災拠点に接続する幹線道路

路線名	指定区間	管内延長	改良率
(主)白馬美麻線	(国)148号交差点～長野大町線交差点	9.4km	100%
(主)大町明科線	(国)147号交差点～(国)19号交差点	14.9km	100%
(主)大町麻績インター千曲線	(国)19号交差点～(国)147号交差点	11.6km	94%
(一)上生坂信濃松川(停)線	池田町池田～(国)147号交差点	1.8km	100%
(一)小島信濃木崎(停)線	大町市美麻北村～大町市美麻宮村	1.5km	100%
(一)川口大町線	大町市美麻中村～大町市三日町	4.9km	98%
(一)美麻八坂線	大町市美麻大藤～大町市美麻宮村 等	3.5km	100%
7路線		47.6km	98%



管内福祉事業所における職員の充足状況及び不足する理由



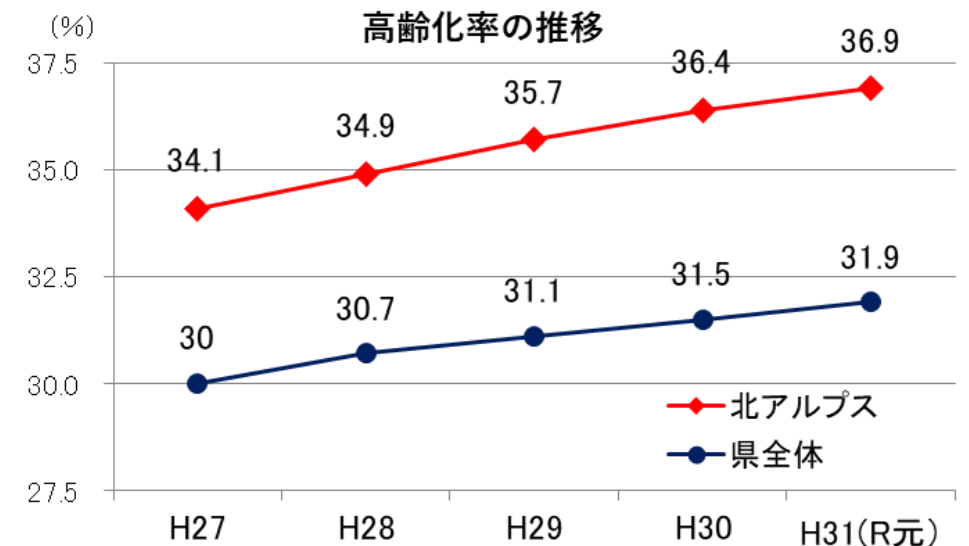
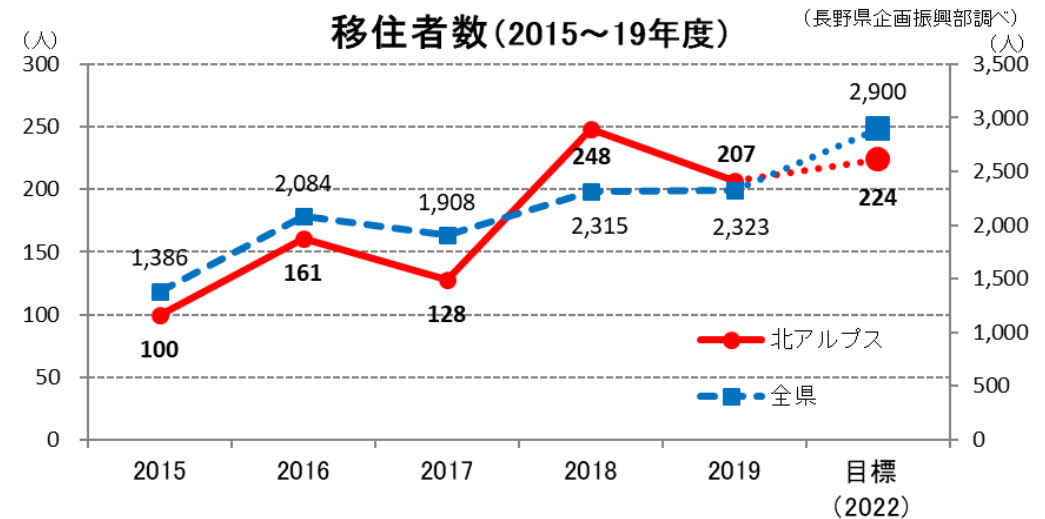
達成目標の進捗状況

移住者数 (企画振興部調)	年度	基準値 (2016)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
		実績値	161人	224人

- 2019年度の移住者数は207人となり、増加ペースは鈍化したものの、基準年の約1.3倍程度と高水準を維持
 - 北アルプス連携自立圏形成（2016年度）以降、移住取組実績数（「連携自立圏」が実施した移住相談件数等）は2倍に増加

【重点政策の評価】

移住者数は増加傾向で推移し、北アルプス連携自立圏と連携した移住・定住推進の取組の成果が表れている。



【今後の取組方針】

(少子高齢化・人口社会減への対応)

管内の高齢化率(36.9%)は県全体(31.5%)を上回るペースで進展。若年層の転出により生産年齢人口の割合が減少。産業、生活環境、地域コミュニティの維持等多くの課題に直面

- 地域を支える人材の確保・若者の定着支援
 - 建設、観光、福祉等多くの産業分野で人手不足が深刻化。Uターン就職の促進など地域企業の人材確保を支援
 - 季節的就業(農業×観光業など)を組み合わせた通年就業の可能性を調査

- 新型コロナ収束後の地方への移住ニーズの状況等を踏まえ、移住先として選ばれるため、地域の魅力向上を図る施策を推進
- オンラインによる移住セミナーや相談窓口の開設などの取組を検討
- 若者が地域への愛着を深め、参加者のつながりを創出する場「ウィキペディアタウン」(※)を開催

● 地域おこし協力隊員の定着支援

- 管内における隊員の定住率は全県を上回る7割程度の水準を維持。隊員の交流促進など局独自の取組開始後3年が経過し、徐々に成果が発現。引き続き取組を推進

● 高齢者の社会参加の推進

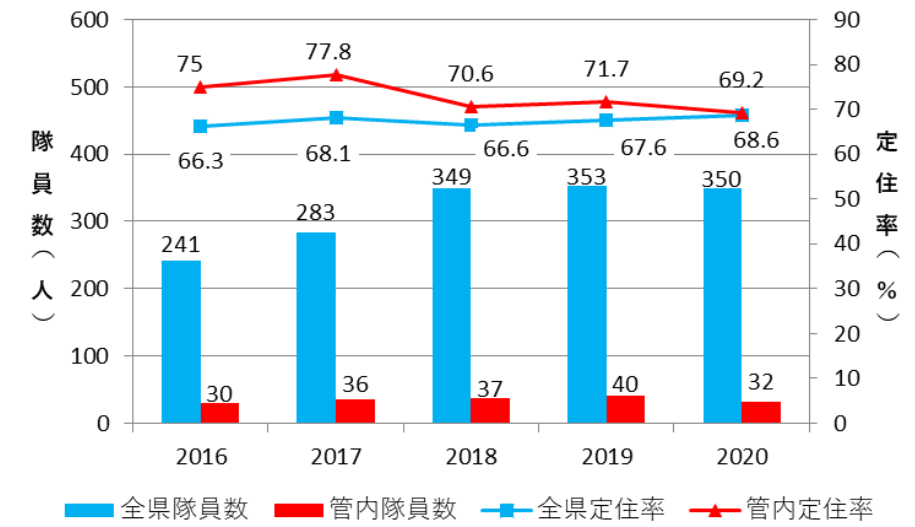
- 活動の場を求める高齢者と団体等とのマッチング、高齢者の居場所づくり支援など、高齢者の生きがいづくりと社会参画を促すための取組を推進

(外国籍住民が暮らしやすい環境の整備)

外国籍住民の増加(白馬村では村人口の11.7%(県内1位)を占める)により、生活相談・防災対策等に係る住民ニーズが拡大

- 外国語による生活・就労・災害情報等の充実及び発信や多文化共生支援システムの構築など市町村の取組を支援

全県及び管内の隊員数・定住率



※ 調査時点: 4月1日現在(H27のみ10月1日現在)
 ※ 隊員数: 調査時点の在職隊員数
 ※ 定住率: H21制度開始以降の通算
 ※ H27年中に管内すべての市町村で隊員制度を導入

外国籍住民数の状況 (単位: 人 %)

市町村	外国籍住民	総人口	構成比	構成比 県内順位
白馬村	1113	9,484	11.74	1位
小谷村	206	2,965	6.95	2位
全 県	37,533	2,087,137	1.80	

外国人住民統計 (R1年12月:国際課調)

※ 地域に存在する文化財等の情報をインターネット上のWikipediaに掲載するワークショップ型のイベント

取組の進捗状況

- 大町市街地南の現道活用区間、大町市街地区間等の調査
 - 国の「計画策定プロセス」によりH28年度から検討開始
 - H30～R元年度 <STEP 1～4>
地域住民との意見交換会を計23回実施
 - 令和2年2月 <STEP 5>
西ルート帯を最適ルート帯として選定・公表
- 国道148号小谷村雨中バイパスの整備
2号トンネル施工中。橋梁下部工完成
- 国道148号白馬村白馬北工区の整備
用地補償契約完了（H30年度）し、本工事着手

【重点政策の評価】

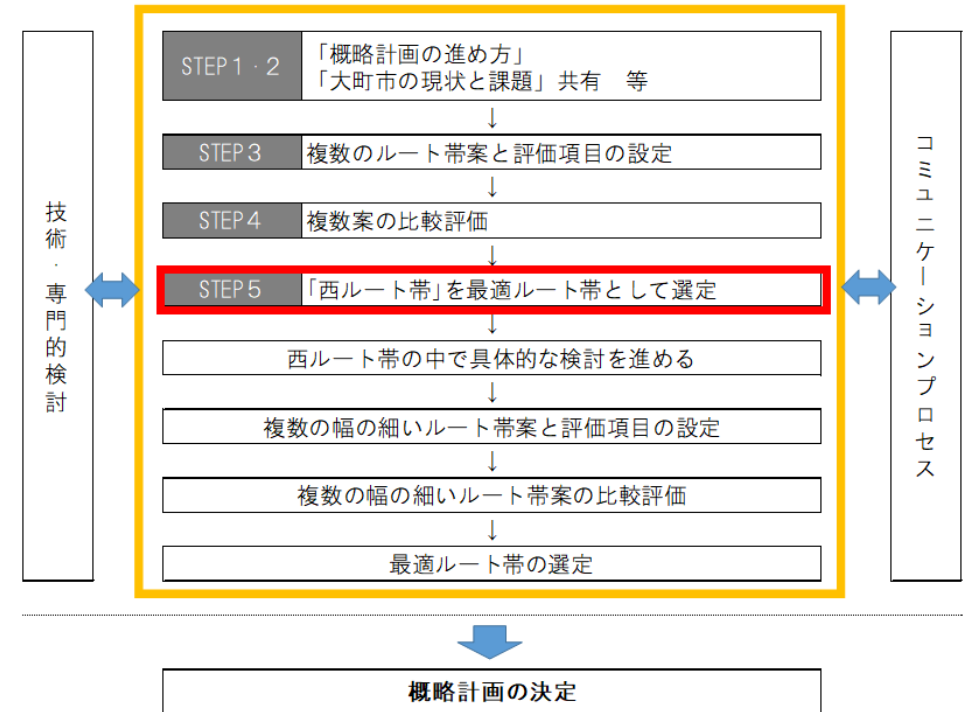
大町市街地区間のルート帯選定など整備計画の決定に向けた検討は概ね順調に進んでおり、地域住民との意見交換会の開催などコミュニケーションプロセスを重視した取組の成果が表れている。

【今後の取組方針】

- 大町市街地区間の調査
令和2年度から細かいルート帯の検討予定
- 小谷村雨中バイパスの整備
5か年計画内の完成供用を目指し、1号トンネル工事に着手
- 白馬村白馬北工区の整備
雨中バイパストンネル工事の残土を活用した造成工事を実施

【計画策定プロセス】

大町市街地区間における計画検討手順



【小谷村雨中バイパスの整備】



施工状況（2020年5月現在）



完成予想図

長野県内の松本糸魚川連絡道路の状況と整備方針

